ハーモニー

さぽちが情報紙

第 33 号　発行日:2021 年 3 月 17 日　発行:認定 NPO 法人 NPO サポートちがさき　発行責任者：益永 律子

〒253-0041 茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7 LC61 TEL:080-6255-7546 E メール:sapochiga70@gmail.com

≪報　告≫ ～ 令和 3(2021)年度～令和 7(2025)年度 ～ 第 5 期サポセン指定管理者に指定されて

昨年 12 月発行の『ハーモニー』特別号 No.1 で皆さまにご報告申し上げましたとおり、茅ヶ崎市民活動サポートセンター(以下、サポセン)の指定管理者に認定特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき(以下、さぽちが)を指定することが、「茅ヶ崎市議会定例会本会議」において可決されました。

そこで、「事業提案書」等の指定管理者指定申請提出書類の検討・作成に携わりました作業プロジェクトチームメンバーに感想や抱負などを語っていただきましたので、紹介させていただきます。

リーダー（サポセン センター長）　中野 有子

数々の申請書類を短期間でしっかりと完成させることができたのは、ひとえに持ち前の力を存分に発揮してくださった、熱意あるプロジェクトメンバー皆さまのおかげと心より感謝いたします。

でも本当に大事なのはこれからです。プレゼンの場で痛感したのは「コロナだから仕方ない」という言い訳は通用しないということ。今回の事業提案の背景には、年々サポセン利用者数が減少し、市民活動団体と行政との協働の気運も下降傾向にあるという厳しい現状がありました。市民活動の捉え方や関わり方にも変化を感じます。デジタル社会への急激なシフト、コロナで新たな社会的課題も浮き彫りになる中、何を支援し、活動する人をどのように増やしていったらよいのか、実効性のある具体策が求められています。

「サポセン」が「市民が主役のまちづくりの拠点」として対面でもオンラインでも市民にとってなくてはならない希望の場所であり続けるために、経験や知見を最大限活かしつつ、新たな発想と実行力、チームの力やネットワークをより強化し、総力を結集して取り組んでいきたいと思います。引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします！

副リーダー（さぽちが 事務局長）　佐野 初美

サポートセンター指定管理の申請書作成は 3 度目になると思います。前回は理事メンバー総出で何回も会議を重ねながら作成した記憶があります。しかし今回はコロナウイルス感染拡大の影響で会議の回数も必要最小限、申請書も主にメールでのやり取りで修正回数が膨大になりました。

その中でも大変だったのは 5 年間の事業計画を作成することでした。コロナの影響なしには考えられないのですが、それをどこまで書き込むのか…
皆さん相当苦労されたようです。

2021 年度からまた新たに 5 年間のサポートセンター指定管理者となりましたので、コロナ禍で下向きになった気持ちと市民活動を元気にできるよう皆さんと一緒に頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

新井 晴美

初めて指定管理申請書作成メンバーとして、「市民活動の情報収集および発信に関する業務」を担当しました。スタッフとして、サポセン HP への事業開催告知・報告などの投稿や、市民活動団体ガイドブックの団体情報更新を行う中で、WEB での情報発信を届けたい人や団体に届くよう、またオンライン環境を持たない人や団体等を取りこぼすことなく情報収集・提供するには…などを考えながら、短い期間にチームで話し合い仕上げた申請書。

これからも社会の流れと共に変化していく市民のニーズを探りつつ、市民活動団体だけでなく様々な主体間をつなぎ、課題解決に必要な相互連携のHub(ハブ)となるサポセンを、法人メンバー＆サポセンスタッフが一緒に盛り上げていければと強く思いました。

永島 雅美

指定管理者指定申請提出書類の作成に初めて参加。感謝申し上げます。メンバーの皆さんと一緒に作成するなかで、サポセンが求められている役割「変化する市民ニーズに“しなやかに”対応しながら市民活動を支援・推進」を強く意識できました。

また、担当の「施設の管理について」では、建物・設備・備品の地道な維持管理による「安全・快適な環境」を提供し続けることの大切さを学びました。さらに、国・学会の公開資料や報道資料等を基にサポセン内で実験等をしながら作成した「新型コロナウイルス感染予防・対策マニュアル」は、サポセンにて活用いただいております。

サポセン指定管理者の一員として 4 月から 5 年間、誰もが"生き甲斐"を持ち続けることが可能な街の実現の支援ができれば幸甚です。

岡島 俊信

私たちはややもすると『言葉』に対し、幻想化し近似的な考えに落ちうる傾向があると言われています。しかし、こと『市民』活動が、歴史的に深く重い意味が込められていることは、真摯に受け止めています。特に、最近の厳しい社会環境下において(否、それだからか)市民活動への参加に、若い人から手が上がっています。

従来の活動を牽引された方々に替わり、新な発想で、異なる方法で社会活動を担う市民へ、サポート(=支援)できる我々も、鳥羽口にたっています。

小山 紳一郎

指定管理事業申請書作成チームの中で、私は「協働事業」を担当しました。現在、茅ヶ崎市では、従来の「協働推進事業」を廃止し、それに代わる新たな制度の導入に向けて検討をしている最中です。

市の方針が決まらない中での指定管理事業の提案は難しかったですが、協働事業が生まれる前段階の「孵化期」が最重要と考え、自分なりの考えをまとめることができました。

申請書作成作業を通じて強く感じたことは、普段なかなか仕事でご一緒できないNPOサポートちがさきの理事とサポセンのスタッフが、作業を通じてONE TEAMとなれたことです。コロナ禍が続く中で、今後提案内容がどのように具体化していくのか、見通せない部分もありますが、理事の皆様のお力添えをいただきながら、今後サポセン事業をさらに充実させていきたいと思います。

松本 泰幸

今回、指定管理プロジェクトでは申請書作成にメンバー各自の持ち味が生かされ、また相互の協力のもと完成させました。また申請者ライバルとしてもう 1 社いたことも、より一層作成に熱意が入ったことも、完成度アップに繋がりました。

私が担当した分野は危機管理関係で、「災害・緊急事態時の対応」「防火管理」「安全管理体制」そして「新型コロナウイルス対策」と幅広く、申請書本文 2 ページにまとめるのが非常に大変でした。しかしこれを機に、マニュアルの新規作成や従来のマニュアルの見直しが出来たことも有意義でした。

サポセンに市民から求められている本質的なニーズは、設立から 19 年が経過した今もかわりません。
サポセンの指定管理者第 5 期目を迎えるにあたり、益永代表理事に創設前後のことを振り返りながら、今後の抱負を語っていただきました。

代表理事 益永 律子

この季節になると思い出します。「NPOサポートちがさき」の前身となる茅ヶ崎市民活動サポートセンター管理運営委員会メンバーが挑んだ不安と期待が交錯したサポセン開館までの 60 日間。知識や経験がなくても、市民の思いがあれば、みんなが力を出し合って成しえた初動期について、私の記憶が定かなうちにお伝えしたいと思います。

1999 年 10 月～2001 年 10 月
「茅ヶ崎市市民活動推進検討委員会」（公募市民 15 名）「茅ヶ崎市の市民公益活動・市民参加促進のための提言」ちがさき市民公益活動サポートセンター設置を要望
2001 年 5 月～10 月
（仮）茅ヶ崎市民活動サポートセンター建設検討
（公募市民 13 名）サポセン機能やハードの提案
2002 年
2 月 8 日
第 1 回市民活動サポートセンター管理運営委員会
（公募市民 19 名）体制づくりを開始
熱意溢れる議論とスピード感で、情報・研修・広報部会を立ち上げて、他市のセンター見学などの情報収集と学習を重ねて利用案内には「市民が主役」の施設を明記
4 月　茅ヶ崎市民活動サポートセンター開設
「オープンニングフェスタ」43 団体参加
6 月　窓口スタッフ急募
7 月・8 月　役員宿泊研修実施
9 月～2003 年 3 月
NPO 法人化プロジェクトチーム結成
会議 23 回、延べ参加者 306 名
2003 年 5 月 30 日
「特定非営利活動法人茅ヶ崎市民活動サポートセンター管理運営委員会」設立（設立登記 6 月 6 日）
2002 年度～2004 年度
特命随意契約業務の委託料
2002 年度 6,922,960 円
窓口人件費をホームページ開設、ニューズレター発行、各種講座の開催等に充当
2003 年度 9,240,380 円
初年度の実績が認められて増額されたが、契約内訳にないことは「やらない」を学ぶ
2004 年度 9,710,780 円
消耗品費が増額
2005 年 4 月～
指定管理者 1 期目
全国公募の結果、指定管理者となり、「特定非営利活動法人 NPO サポートちがさき」に名称変更

❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀❀

前置きが長くなりましたが、2021 年度から 2026 年度まで 5 期目の指定管理者への取り組みをお伝えします。

コロナ禍後に起こる変化として、取り残されがちな社会問題は深刻さを増し、格差は拡大することが予測されます。身近できめ細かい市民活動の存在は、ますます重要になります。

さまざまな市民活動が分野や世代、セクターを超えて連携して「助ける・助けられる」ことが同時に起きて相互の利益を共有できる「新しいつながり方」を生みだすことが求められます。

基本理念

「利用者の視点にたったサービスの向上」
「共感」「参加」「多様性」を重視して、市民の力が発揮できるように「市民が主役のまちづくりの拠点」の運営に全力を尽くします。
1. 情報発信の強化⇒市民活動への共感と信頼の向上
2. 個人や団体のエンパワメント⇒段階的に支援
3. 協働の新しいつながりの創出⇒相互理解と参画
市民が多様にかかわる参加の仕組み

基本方針

「ネットワーク型の運営、次世代人材の発掘、チーム力の強化」に努めます。運営業務においては、職員個々の経験とスキルを活かして「チームで対応する仕組み」を充実させます。そのための人材育成に力を入れます。

基本協定書（2021 年度～2026 年度）

協定書（案）について市民自治推進課と協議中です。
コロナ禍は不可抗力に相当すると思われます。
「リスク分担表」の「不可抗力」に記載して、感染症対策のコストなど指定管理業務に与える影響についても加味して、「協議事項」に加筆することを提案します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2020 年 12 月市議会　総務常任委員会傍聴記

業務委託 3 年、指定管理者 16 年目の当法人の管理運営に対して杉本議員から「可もなく不可もなくの状態に長時間陥ると、新鮮味がなくマンネリ化、硬直化していく部分がでる。」との発言がありました。
三浦克之行政改革推進室課長は「行政と民間の双方向のコミュニケーションを通じて、指定管理者のノウハウ、経営資源を最適な形で組み合わせることで、指定管理者の力を引き出してサービスレベルを上げていく。指定管理者の力不足に見える部分があれば、行政がしっかりと協議してレベルを上げていく取組も必要と思う。」と答弁されました。サポセン開設前後、「市民運営のよさを引き出す」思いをもって、支えてくださった八幡和宏さんをはじめ市民活動推進課の職員の方々の顔が浮かびました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

みなさまへ

組織の活力は会員のみなさまの自発性を源泉としています。地域や社会をよくしていきたいその思いを「さぽちが」で発揮してください。
社会不安を克服するための試みとして、楽しい、面白いアイディアや企画をお待ちしています。

≪参加報告≫

～「食から未来へ」第二回勉強会 ～
旬をたのしみ、秋を楽しむ！ 芋煮会

佐野 初美
杉村 一憲

当法人では、2020 年度自主事業として、協働によるまちづくり推進事業の一つとして「食から未来へ勉強会」を、久保田邦邇氏をリーダーとして行っています。今回は、第２回勉強会でした。

11 月 8 日（日）11 時から、当団体も入会しているリベンデル貸し農園にて園内で収穫した里芋などを使ってリベンデル会員有志が料理を作るとともに互いに交流する会が開催されました。

当団体からは、佐野、小関、杉村の 3 名が参加しました。このような屋外の明るい雰囲気の中で、美味しい飲食と交流は、大変楽しいものであり、良い勉強会になりました。

≪寄　稿≫

オンライン会議（WEB 会議）に思うこと

小林 孝男

今日インターネットがさまざまな分野で利用されています。これは時代の流れです。会議にも導入され遠距離同志の会議も可能になり、育児中の人とか種々の事情で会議に出たくても出られなかった人も会議に参加できるようになりました。そして、コロナ禍がこれに拍車をかけました。これからオンライン会議が一般化するのでしょうか。リアルで会議に参加するのか、オンラインで会議に参加するのかどちらでも良いとなったら誰だって便利なオンラインの方を選びます。しかし人々が直接会わずに行うオンライン会議において、親近感や連帯感をどう醸成するか、大人数の場合の対応をどうするか、齟齬のない細かい打合せをどうしたら実現できるか等々、検討しなければならない課題が多くあると感じています。

一つの会議でオンラインを認めたら現場に臨場しなければ出来ない場合以外は全ての会議にオンライン利用を認めることになります。そうしなければ不公平です。従って会議のオンライン化にはルールが必要ではありませんか。ひたすら利便性のみを追求するのではなく、しっかりとしたルール作りをしてオンライン会議を導入すべきです。

例えば、話し手は、①都度、確認事項や疑問点が無いかを確認しながら話す、②他の発言者がいないかを確認しながら話す。聞き手は、①相手の話が「聞き取れている・聞き取れていない」「理解できている・理解できていない」という意思表示を明確に行う、②メール確認をするなど関係のない作業はせず、話者の話に全員が集中する、③一人ひとりがその会議の参加者だということを意識してカメラに映る。進行係は、①音声・画像などの情報は伝わっているかを確認する、②発言や質問したい者がいないかを確認する。オンライン参加者はリアルの会議の場で話されている事が聞こえづらかったり、理解しづらかったりすると疎外感を感じてしまいます。多少手間がかかってもリアルとオンラインの双方にとって気持ちの良いコミュニケーション状況やリモートワーク環境になっているか確認しながら、リアル参加者とオンライン参加者との交流の場をつくるなど、時間がかかっても丁寧なコミュニケーションに努めることにより、コミュニケーションしやすい状況、一体感の醸成ができるものと考えています。さらに言うと、無制限にオンライン会議を採用するのではなく、人と人が会して議論するリアルでのコミュニケーションの大切さを今一度考えてほしいと思います。

昨年末にオンラインで忘年会をやった話がありました。いくら飲み過ぎても自分の家に居るのですから安心です、会費も要りません。でも私は参加する気はありません。

≪ 会員・賛助会員のご紹介 ≫　～ お元気ですか！ ～

日頃お顔を合わせる機会が少ない正会員・賛助会員の皆さま方の交流を図るためのコーナーです。

お訊ねした事項　※回答を控えたい質問にはお答えいただかなくて良いことにしています。

1. ご出身　2. 趣味・特技　3. 2.で、最も熱中している趣味・特技について　・何年くらいなさっていますか？　・どんなところが楽しいでしょう？　・自慢されたいこと　・目標・今後のご予定　4. 好きな季節　・その理由は？　5. あなたにとって大切な「物」　6. 好きな食べ物　7. 好きな飲み物（お酒以外）　8. 好きなお酒　9. 好きな音楽　10. 座右の銘／好きな言葉　11. 尊敬する人物　12. ストレス解消法　13.どちらかと言えば、好きなのは？「デジタル・アナログ」「自然・人工的」　14. その他ご自身のことで、ご紹介されたいこと

上杉 桂子（うえすぎ けいこ）さん

サポセンにはいつも親の会活動のサポートをしていただいていたので数年前入会。

1. 東京都
2. 絵を描くこと、映画鑑賞、福祉の勉強
3. 福祉の勉強（約 25 年間）
   子どもの将来について自分がやるべきことやできることがわかったり、子どもの将来に希望を持つことができます（失望する時もありますが）。福祉を頑張って、社会福祉士資格を取りました。子どもの幸せな暮らしの仕組みを整えたいです。
4. 冬ー家の中の暖かさを感じることができるから
5. 子ども、楽しい
   思い出（写真等）
6. 鶏肉以外は何でも好きです
   特にイタリア料理。
7. 何でも好きです。
8. 赤ワイン
9. ロックンロール

11. 日本人医師　中村　哲さん
12. 映画を観たり、気の置けない友人とお茶飲みしたりがやっぱり最高です。
13. アナログ、自然
14. 子どもの頃、父の仕事の都合でアフリカ・リビアに住んでいたことがあり、幼いなりに日本への強い望郷の念を抱いていました。今でもその気持ちは変わらず、日本が大好きです。だから外国の人のことも大事にしてほしいと思うし、日本で起こるおかしなことにも人一倍心が痛みます。そういうところはちょっと同世代の女性から引かれています（笑）。

内野 義生（うちの よしお）さん

2012 年東日本大震災翌年防災スイッチオン！設立を機にさぽちがに入会。

1. 神戸、但し血は、純血の博多っ子九州男児
2. 水泳、ウオーキングうっちー東海道をゆく（途中あと 100 キロ）、DIY、ヨガ、家庭菜園、庭いじり、ガーデニング園芸、料理、沖縄・海・ダイビング
3. 料理（小学校４年生以来 48 年）
   組み合わせは無限大。美味しいクリエイティブチャレンジができること。
   博多のがめ煮（筑前煮）、
   里芋も自宅の庭で自作。
   沖縄の島でダイバーズレストラン＆パラダイス

4. 夏ー寒いのはだいきらい。10℃で凍結。
5. 綾瀬はるかの TBS ドラマ『世界の中心で愛をさけぶ』完全版 BD-BOX
7. コカコーラゼロ、綾瀬はるかが「うちのコーラは世界一」と言ってくれたから。
10. 災い転じて福と成す大作戦
13. デジタル、自然
14. 今回のサポセンこどたん 2021 に「こどたん防災オンライン 2021　えぼし麻呂とサバイバルチャレンジ！」で参加しました。
    URL : http://www.jishin-tsunami.com

エコー

『 サポセンの建設 』

サポセンの指定管理者にさぽちがが指定され、過去の貴重かつ豊富な経験を活かすなどの「事業提案書」を提出し、認められ指定管理者に指定されました。おめでとう御座います。

この際、さぽちがを建設した時に携わった私が当時の状況をしたためたらと思い書きました。

サポセンの建設当時には他の公共施設にないものがあります。入口に花壇があり、駐車場があり、平屋の建物、建屋には車椅子用のスロープ、中に土足で利用できる室内、入口近くの受付はカウンターで利用者に応対でき、子供連れの人が使用できるプレイルーム、給湯室、広いフリースペースなどがあります。これらは無から考えだした公募で集まった 13 名の（仮称）市民活動サポートセンター建設検討委員会の人々の叡智をまとめた結晶だと思います。同検討委員会は平成 13(2001)年 5 月～10 月まで 6 ヶ月にわたり活動しました。この内容を克明に議事録として残し、また市と検討委員会の調整をしてくれた、市職員の難波さん、また十人を超える委員の意見を辛抱強く聴き、まとめた委員長の益永さん、副委員長の青木さんにも感謝申し上げます。

建設検討委員会（募集要項より）

募集人数：12 名程度、任期：平成 13(2001)年 5 月～平成 14(2002)年 3 月の 11 ヶ月、応募者：13 名

（会議は月 1～2 回、市役所会議室などで開催）

事業費

建設費：6,400 万円、什器備品：400 万円、

消耗品：280 万円、その他：20 万円 計 7,100 万円

賛助会員：髙橋 英夫

『 たいなあ精神 』

営業マン人生の約 40 年は、「迅速・効率・徹底」と「数字」に追われる日々でしたが、刺激も多く面白い充実した日々だったように思います。
還暦を過ぎ、これからどうしようと思っていた時に開かれた小学校の同窓会で、昔先生に言われた「たいなあ精神」が話題になりました。

「たいなあ精神」とは、何々に　なりたいなあ/したいなあ　の語尾を取った言葉で小学生の純粋で前向きな気持ちを表しています。
あらためて「何が出来るかではなく、何がしたいか」だと気付かされました。

そんな時に、茅ヶ崎市生涯現役応援窓口のコンシェルジュの募集を知りました。
地元で活動の場を探したいとの思いから応募し、結果 5 年間務めさせて頂きました。
この間、多くの地元情報に接し様々な活動をしている人々との出会いは、新鮮で私のセカンドライフにとって大変貴重な体験となりました。

これからも「何がしたいか」「楽しいことがやれているか」を主体に、この「たいなあ精神」で、チャレンジしていきたいと思います。
昨年 9 月からは、次のステップに向け(サポセン)スタッフの活動も始めました。

サポセンスタッフ：杉山　仁

～会員募集～　市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与するという目的をご理解いただきご入会ください。
入会のお申込みは佐野までお願いします。

～会費情報～　入会金なし
年会費＝正会員：3,000 円/賛助会員：2,000 円

こぼれ話　サポセンがオープンするときに集まったメンバーで漢字では堅苦しいのでなんとか市民に親しみやすい名前をと考えて「**ちがさき**市民活動サポートセンター」に決めました。しかし市の条例では「**茅ヶ崎**市民活動サポートセンター」となっており、これが現在でも正式名称です。法人の名前は会員の皆さんが考えて決めてくれました。今では略称で「**さぽちが**」と呼ばれています。

P.5 の「雪と子ども」のイラストは、鶴嶺高校 2 年生 K さんの手描きの作品です。

今後の主な活動
（予定は変わることがあります）
〇理　事　会：毎月 1 回
〇全　体　会：3 月 21 日
（理事会、全体会ともオンライン併用）
〇総　会　　：5 月

編集後記　さぽちが創立 20 周年を迎える 2022 年の前年となる 2021 年 4 月からの 5 年間、さぽちがが 5 期目の指定管理者と決まり第 33 号は拡大版となりました。プロジェクトメンバーのメッセージから、指定管理者決定が用意された当たり前のものではなく、日頃の努力や真摯な取り組みだったことを皆さまにお伝えできればと思います。